

溶岩が生んだ柱状節理

中山半島と御倉半島は、湖畔から十和田湖の中心に向かって「コ」に字に突き出しています。目に見える部分は内側カルデラを構成する壁の一部にすぎず、そのほとんどは水面下に隠れています。この小さな内側カルデラは、大きな十和田カルデラが誕生した後の噴火活動で生まれたものです。目の島々やその背後に見える岩山は、それと同じ溶岩で作られました。溶岩が冷えて固まる過程で割け目が生じて、柱のような岩の集合体が形成されました。その特徴的な見た目から、このような岩を「柱状節理」と呼びます。